各物分会ファイル 11

2018年春の拡大打上げ式

板橋支部蓮根分会

頼りになる仲間達
地域イベントに積極参加

【板橋・板金・松浦由紀子通信員】蓮根分会の組合員とその家族は、ひと言で言いますと分会活動などにも良く出席してくれ、協力をしてくれる頼りになる仲間たちです。

たとえば、住宅デー、運動会、餅つきなど土建関係はもとより、地域、町会などにも協力しています。この町会に来てから10年ほどになりますが、板橋区主催の、板橋子供まつり、蓮根マルシェ、町会主催の縁日はロータス商店会の一員として、参加をしています。住宅デーなどのこともよく知っていて、とても頼りにされています。

また、拡大行動のときは、男性は10人位で各グループに分かれ、1人でも多くの組合員を増やそうと出かけ、女性は5、6人でビラ折りをしてから歩いてビラ配りに出かけます。このように色々な活動がありますが、「人手が足りなくて困ったな」などということはこれまで一度もありません。

分会長は野村誠さん、書記長は野村進さんが担当しています。名前を見てもお分かりと思いますが、二人は兄弟、しかも双子なのです。最初は見分けができませんでしたが、分会の人たちは皆分かるようになりました。

分会活動で大活躍してくれていますが、そんな兄弟も今年65歳になり、役員の定年になり、蓮根分会も新しく役員になってくれる組合員を探さなければなりません。若くて元気のある人がやってくれるのを期待しながら、分会を盛り立てて行きたいと思います。

運動会も大勢集まってみんなで盛りあがる

練馬

屋形船で交流深める
36社の参加で名刺交換

【練馬・書記・佐藤大地記】11月11日、事業所対策委員会主催で「屋形船de事業所交流バスツアー」を開催。20分会から36社37人の事業所の仲間が集まりました。

「せっかく組合に加入しているのだから、その事業所同士で交流して仕事やプライベートの仲間をつくりたい」。その声にこたえた形で始まった事業所交流バスツアーは今年で3年目。行きのバス車中では「東京土建とは…」のミニ学習を受けて土建クイズが行なわれ、37人中14人が100点満点をとるなど組合に対する理解を深めました。

午前中は東京ゲートブリッジの散策、昼食は貸切屋形船（隅田川～お台場）での名刺交換、午後は葛飾柴又の散策という行程にそって、1日たっぷりと時間を共有して交流がすすみました。

昼食交流時の一人一言発言では、「同じ職種の方で手が足りない時はいつでも呼んでほしい」「とにかく仕事で困ったらうちに連絡ください」など、各々が仕事や組合のことでアピール。下町の景観に目もくれず、みな名刺交換に飛び回って、笑顔が溢れる交流会になりました。

貸切屋形船の中では名刺交換でおおいに交流

多摩西B

53人参加で大盛況
青年部の釣りイベント

【多摩西部・書記・嶺村靖秀記】11月11日、多摩西ブロック青年部で釣りイベント「よくみるとかわいいマスを釣る会」を開催。当日は53人の参加で盛況となりました。

4支部の部員・家族らがバラバラに3チームに分かれ、釣り大会、カレー作り、ジェスチャーゲームを行ないました。釣り大会は各チーム代表を2人出し、1分間で何匹釣れるかを競い合いました。大人たちからエサの「ブドウ虫」を触ることができない人や、魚が飲み込んだ針がとれない人が出るなか、子どもたちは虫に慣れているのか数を伸ばしているように感じました。

釣り大会の結果に応じてカレーの食材を優先的に選び、中には納豆など外れの食材もありましたが、最終的にはどのチームもおいしく仕上がっていました。

多摩西ブロックでは、今後もイベントを盛んに行ない、交流を深めていく予定です。

魚さばきを学ぶ子どもたち

荒川

「荒友会」が15周年
経験活かして頑張る

【荒川・塗装・濱田和男記】11月9日、荒川支部で私が会長を務めているシニア「荒友会」の15周年記念祝賀会を荒川区役所地下のレストラン「さくら」にて開催。東部ブロックの来賓の方々と、各分会の仲間総勢55人の参加がありました。

川又副会長の開会あいさつでスタート。多くの仲間と「荒友会」と組合の歴史を語りながら、あらためて会の仲間の中には支部役員を長年務めた経験豊かな方が多くいることに驚きました。

乾杯の後、会場発言などがあり、その豊富な経験を活かして本部方針通りに活動していくことを確認。その後、落語家の立川談修さんに漫談形式のお話があり、会場は笑いの波に包まれました。

強くたくましい「荒友会」のために三役、幹事さんがお互いに協力し合って頑張ることを誓い合い、閉会となりました。

漫談落語に会場は盛り上がる

板橋

救助隊で救命講習
「もっと大勢受けて」の声

【板橋・書記・武田栄一通信員】11月11日、土建板橋災害救助隊は、第7回講習会・普通救命講習を板橋支部会館で行ない、25人が参加しました。

東京防災救急協会・地元の消防団の方を講師に救命措置としての「心肺蘇生」や「AEDを用いた除細動」、「気道異物除去」などを学びました。

人形を相手に心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）、AEDの操作の実技を行ない、講師の方に指導を受けました。修了者には後日、「認定証」が送られます。

参加者の方々からは「AEDは電気ショックを与えるものということで恐怖感がありましたが意外と簡単に使え、器具の誘導アナウンスもあるので素人でも使えるものと認識を改めました」

「前回も参加しましたが忘れている部分もありました。やはり1年に2回位受けないと覚えられないような気がします。もっと多くの人が受けてほしいと思いました」などの感想が寄せられました。

人形を相手に救命措置の訓練